

# かたやなぎ進

日本共産党



子育ても老後も  
安心のまちを

## かたやなぎ進のお約束

- こどもの医療費を所得制限なしで中学卒業まで無料に
- 認可保育園の増設、私立幼稚園の入園料補助・保育料補助増額を
- 「住宅リフォーム助成制度」実現を
- 「プレミアム商品券」実現で商店街の活性化を
- 県官舎跡地(小田1丁目)は市民利用施設を
- 石油コンビナート災害から市民の命を守る
- 特別養護老人ホームの増設を
- 「船の来ない港」1000億円のむだづかいストップ!



若くて有能な「かたやなぎ進」さんに、このたびバトンタッチすることになりました。私が所長を務めるくらしの相談センターでは所長代理として力を発揮してくれており、市政の場ですぐに働ける人です。皆様のご支援ご協力を心からお願いいたします。(日本共産党市会議員 宮原春夫)

## —くらし・福祉優先の県政に—

日本共産党

党川崎区県政対策委員長

ごとう真左美

川崎区



安倍政権直結の黒岩県知事が進める、大型開発や特区など大企業優遇の政策ではなく、大切な税金をくらしや福祉に使い、みなさんの声をまっすぐに県政に届ける共産党の県会議員がどうしても必要です。一人一人が大切にされる身近な県政をつくるために頑張ります!

### 私のお約束

- こどもの医療費を中学卒業まで無料に
- 私学助成の拡充をはかります
- 安心して住める、県営住宅の増設を
- 最低賃金は時給1000円以上に
- 消費税増税の中止を求めます
- 石油コンビナートの防災対策強化を

**プロフィール** 1966年12月14日生まれ。法政大学社会学部応用経済学科卒。1989年神奈川労働金庫、2006年神奈川県建設連合国民健康保険組合など勤務。青年運動、労組婦人部書記長、労働者学習協会事務局次長など歴任。現在、党川崎区県政対策委員長、川崎区東門前在住。



川崎区版 ●日本共産党の見解を紹介します。  
発行：日本共産党川崎市委員会 川崎市川崎区砂子2-8-1-401  
連絡先：川崎南部地区委員会 044-233-3571

かたやなぎ進

検索



市立川崎高校が中高一貫教育になったことや、選択しやすい普通科が少なくなっていることは、南部地域が子育てに寄り添った教育環境ではないと思います。「川崎で育って良かった」という思いが「川崎に住みたい」になるので、どんな環境の子どもも川崎で教育を受け、認められる行政を望んでいます。それを、子育て世代のリーダーとして実践して下さるのが片柳さんだと思います。

大島上町在住 2児の母 H.Iさん



税金の中で滞納が一番多いのが消費税です。それは、赤字であっても負担しなければならぬからです。滞納が多いということは、その税金の仕組みそのものに欠陥があるということです。経済の屋台骨である中小業者が税金でつぶされないために、増税ストップ、税金の使い方を正す、日本共産党の片柳進さんを応援します。

川崎中央民主商工会会長 西馬場 学さん (型枠大工)

片柳さんの奥さん一家とも、宮原春夫議員とも長いお付き合いをしています。築30年を超えるマンションで、いろいろなトラブルで困っている時に、片柳さんが管理組合の理事長を引き受けてくれ、それ以降トラブルも減り、精神的にも落ち着いて生活できるようになりました。議会でも力を発揮してもらいたいです。

サンシャイン新川通在住 阿部 文子さん



片柳さんとは、同世代の弁護士、労働組合などのメンバーで、一緒に街頭労働相談に取り組んでいます。片柳さんは、発想が創造的で、道行く人へ「ブラック企業度診断アンケート」をしよう!という斬新なアイデアを提案、大成功しました。片柳さんの、人としての誠実さ、優しさは、無反応に見える道行く労働者の心に寄り添い、開かせる天性の才能だと感じています。このような方に、是非議会で活躍してほしいと心から思います。

ワーカーズネット・川崎合同法律事務所 弁護士 川岸 卓哉さん

期待します

かたやなぎ進

さんに



安倍首相が、国連総会で集団的自衛権をポケットに隠しながら、「積極的平和主義」を掲

げました。日本は70年間憲法9条の絶対的平和主義で世界に貢献しています。「お手伝い」だけでは戦争はやめられません。日本は日清戦争から長崎原爆投下まで120年の間戦争して、やっと平和になったのに、また戦争するんですか? そんなことは許せない!

川崎市技能職団体連絡協議会

元会長 新川通在住 若月 偉男さん



その時、共産党はいつも声を挙げ行動した。昭和初頭、弾圧と戦争体制が露骨になった時。いまその時と似たとき。わたしたちは、声を挙げたい行動を起こしたい。憲法無視の内閣は「憲法違反」だと。そして9条で明記した「その他の戦力」を川崎からはじき出したい。その先頭に片柳君を立てたい。日本国憲法の自治体川崎を希求するわたしたちは、片柳君を希求する。

元三省堂役員

教科書編集者 今井 克樹さん



# 雇用・子育て・くらし…願いに応じて 全力で行動 — かたやなぎ進

## ブラック企業、許さない行動

若手弁護士や労働組合員などが協力して、「ブラック企業をなくそう」というネットワークを結成。かたやなぎ進もその一員として参加しています。深夜の街頭労働相談では「職場から保険証を受け取っていない」「パワハラがひどく『犬』呼ばわりされた」などの相談が寄せられています。



街頭での対話

## 子育て世代の願いを市政に



子育て中のお母さんとの対話

「子育てが大変」との思いを市政に届けるために、川崎区の公園をまわって「子育てアンケート」を実施。「園庭があり雰囲気の良い保育園は倍率が高く、希望の保育園に入れるか不安」「東京では中学校まで医療費無料なのに、なぜ川崎では小学校1年までなのか？子どもの通院をガマンさせている人もいる」などの声が寄せられています。この声を市議会に届け、実現のために力を尽くします。

## くらしの相談センターでの相談活動

2014年1月から、くらしの相談センター（川崎区東田町）のスタッフに。（現在、所長代理）

夫婦で闘病中に、生活のめどが全くつかない状態になり、途方に暮れていた時期がありました。その時に初めて片柳さんにお会いしました。あの時くらしの相談センターの門をたたかなければ、今現在の生活はなかったと言っても過言ではありません。微力ながらこれから夫婦二人で片柳さんを応援したいと思っております。

新川通在住 竹村 恵美子さん

- |                 |             |          |       |                  |            |         |                 |              |           |              |                 |
|-----------------|-------------|----------|-------|------------------|------------|---------|-----------------|--------------|-----------|--------------|-----------------|
| 渥美 和幸           | 吉田 二三夫      | 畑谷 嘉宏    | 長森かおる | 田中 国雄            | 笹岡 敏紀      | 黒川 則彦   | 鈴木 啓子           | 篠原 義仁        | 佐藤 進      | 桑島 政臣        | 柏熊 由美           |
| (有グリーンフーズあつみ社長) | 県商工団体連合会副会長 | 弁護士 元県議員 | 音楽家   | 川崎市社会保険推進協議会事務局長 | 川崎9条の会事務局長 | 藤崎商店会顧問 | 神奈川県建設労連主婦協議会会長 | 弁護士・前自由法曹団団長 | 川崎建設労連書記長 | 医師・藤崎クリニック所長 | 新日本婦人の会川崎南支部支部長 |

かたやなぎ進さんに  
期待します

## ●生い立ち

**公** 務員として働きながら労働運動・保育運動で頑張る両親の姿を見て育ちました。

相撲が好きで大好きな北の湖が負けるに泣いていました。「度言ひ出したら聞かない、ガンコなスーちゃん」（母：片柳容子談）でした。

小学校では冬でも毎日半ズボンで通う元気な子ども。学級文庫にあった「はだしのゲン」を見たり、家にあった「へロ出しチョンマ」の本を読んで、「なぜ戦争や差別があるのか」と思い始めました。

中学生の頃、湾岸戦争やコメの輸入自由化などが問題になり、高校のときに「もつと世の中のことを知りたい、自分も何かしたい」と思い、民主青年同盟（民青同盟）に加盟。

## ●学生時代—ボランティア活動から 日本共産党に入党

**高** 校では柔道部に入り初段を取得、副将を務めました。

高校3年の進路に悩んでいた1995年1月、民青同盟の先輩に誘われて阪神・淡路大震災のボランティアに参加。



高校時代は柔道部に所属（前列右端）



阪神大震災ボランティア（左端）



宮城県石巻市被災地ボランティア（左端）

# かたやなぎ進の活動の原点は 震災ボランティア



三浦 かずとし  
日本共産党宮城県会議員

東日本大震災で被災地が大変困難な時に、片柳さんが、石巻救援センターに駆けつけていただき、きめ細かい支援を一緒にやってくれました。

今度は先輩、宮原春夫市議からバトタッチし、川崎市政に挑戦するという話を聞きました。彼ならきっと市民のために働くこと間違いありません。

被災地での体験を生かし、必ず勝利して下さい、被災地から祈っています。

（なお、宮原市議とは、石巻市に100台以上も自転車を支援して下さいました）

「介護のために1カ月に10万円かかる。特養ホームを増やして」「子どもが病弱。子どもの医療費無料化を広げてほしい」など市民のみなさんの声を聞いてきました。その一方で、「船の来ない港」「100億円の高速道路」などの税金ムダづかいが進められている…この政治を変えたいと思い、宮原春夫議員の活動を引き継いで市政に挑戦する決意をしました。



2人の息子と

量調査にも参加し、データづくりも行ってきました。

**大** 学卒業後、日本共産党の職員として、地区委員会・県委員会活動し、結婚した2007年から川崎市民。長男の誕生を機に、妻の実家のある川崎区に転居してきました。

事故が起きたとき長男は妻のお腹の中にいました。毎日原発事故のニュースを見ながら「このまま川崎に住み続けられるのか」「放射能が胎内の赤ちゃんに影響したらどうしよう」と、不安な思いに駆られました。「こんな思いをさせる原発をなくしたい」と思い、原発反対の官邸前行動などに家族や友人と参加。川崎市の放射線

## ●川崎市政に挑戦する決意



4歳の頃（中央）

2011年3月の東日本大震災と原発